

# 報告第1号 令和2年度 作業部会活動報告

## 1. 病院部会

- (1) 令和2年度は新型コロナウイルス感染症リスクと各病院における対策のため、部会を開催できなかった。
- (2) 今後の病院部会については、新潟県が今年度中に示すとされる病院機能再編を見据えながら、各病院の方向性を再検討し、病院機能の持続性を踏まえた協議が必要。

## 2. 介護サービス部会

- (1) 4月に部会の開催を予定していたが新型コロナウイルス感染症の影響より開催を延期。
- (2) 9月に作業部会を開催。各作業の進捗状況報告・作業内容の課題整理を行うとともに、介護施設における資源管理システムの運用を進めていくための体制づくり等について協議。以下は各作業の進捗状況等。
  - ① 「施設の機能（対応範囲）の把握と整理」として、医療処置等の範囲・受入れ等アンケートの実施を予定。
  - ② 「共有すべき情報の把握と標準化」として、コロナ禍の影響で予定通り進まず。今後どのようにして集会を開くかが課題。
  - ③ 「施設で利用する様式の標準化」として、老健の短期入所申請書の統一様式を作成し、老健協議会で検討中。引き続き働きかけを行う。
  - ④ 「身元引受人に関する問題の検討」として、「身元引受人ガイドライン」の指針を関係機関に示し、アンケートを取りまとめ完成させる。
  - ⑤ 「流動的に利用者を移動する体制の検討」について、本年度から特養入所申込一元化を「歌代の里」で実施。今のところ問題なく稼働。
  - ⑥ 「情報共有基盤として「ひまわりネット」の活用」について、「ひまわりネット」のタブレットの利用案を提示し広めていく。また、「ひまわりネット」ユーザー会をオンラインで開催予定。

## 3. 障がい福祉サービス部会

(佐渡市地域自立支援協議会の全体会及び7つの作業部会で協議。以下は提供体制協議会と関係する主な部会について記載)

- (1) 「相談支援部会」では、福祉サービスの適正な運用、相談支援体制の在り方、人材育成等について検討する。

- (2) 「知的・身体障がい部会」では、新型コロナウイルス感染症対策や強度行動障がいのある方への支援方法について、情報交換を行うことで共有を図る。また、ABA研修等職員の資質向上のための研修継続についても確認する。
- (3) 「精神障がい部会」では、「精神障がいにも対応した地域包括システム」の課題について検討する。

#### 4. 在宅医療部会

- (1) 新型コロナウイルス感染症の影響から部会・WGとも開催が出来ない状態が続いたが、12月にハイブリッド形式（参集とオンライン〔Zoom〕での同時開催）にて感染対策を講じて部会とWGを同時開催し、2月にも同方式にて2回目のWGを開催した。
- (2) WGについては今年度より、これまでの在宅WGと入退院WGを効率的に進めることを目的の一つにまとめ、「新在宅WG」として再スタートした。活動についてはこれまでの在宅関連・入退院関連を引き続いて継続し、過去の課題をどのように実現していくかという方策と、新たな問題点を探り検討していくこととした。
- (3) 以前の在宅WGで課題として残っていた医療用麻薬使用者の施設受け入れについて、今年度は新型コロナの影響で思うような活動が出来なかった。これまでの活動で医療用麻薬の施設での受け入れについて、取り扱い等に関しては大枠で理解を得たが、現状としてはなかなか進まないところがある。今後、この協議会が法人格を持った上で、また改めて施設への申し入れ等を検討していく。
- (4) 佐渡市版エンディングノート「ゆいノート」については、昨年度完成して関係機関等に配布し、また市報等で広報して希望する市民は入手することができた。今年度佐渡市にて増刷し、今後は市民に広く普及していくために活用方法等を検討していく。佐渡市では「ゆいノート」の出前講座を開催している。
- (5) 入退院支援については、これまでWGで取りまとめてきた「佐渡において理想の入退院支援を実現するための提言書」を在宅医療部会に諮り、承認を得た後、医療介護福祉連携部会へ提出し、活用方法について協議してもらうこととした。
- (6) 医療・介護・福祉に携わっている有志約20名が「いか福@Sado」を立ち上げ、佐渡の医療、介護、福祉が持続していくこと、また佐渡の未来に繋がることができるように活動を開始した。YouTubeでオンライン帰省を勧める動画を作成して発信している。
- (7) 新型コロナに関して、医療・介護・福祉のそれぞれの現場での影響について情報交換を行った。

#### 5. 医療・介護・福祉連携部会（資源管理部会）

- (1) 7月に第1回作業部会を開催。部会メンバーの変更や新型コロナウイルス感染症により協議のスケジュールが大きく変更になった現状を踏まえ、これまでの経

緯と現状を確認した。また、連携部会の活動方針・計画について、令和2年3月に設定したスケジュールを改めて設定した。

- (2) 12月に第2回作業部会を開催。システム開発に係る資金調達について、新潟県のアフターコロナを見据えたイノベーション創出支援事業への申請について事業提案が採択された場合の手続きや協議会におけるスケジュール等について検討。
- (3) イノベーション創出支援事業について、資金調達方法として臨時理事会へ上程。事業採択された場合の補助金交付申請について承認される。その後正式に事業採択されたことに伴い、臨時総会（書面会議）へ上程し承認される。
- (4) 2月に第3回作業部会を開催。イノベーション創出支援事業の進捗状況等について報告し情報共有を図る。また、新法人の設立について、方向性や概略、今後の課題等について協議。

## 6. 学習・研修部会

- (1) 11の職種別グループにより研修プログラムの検討を進めた。新型コロナウイルス感染症感染防止のため、集合型での検討が実施できなかった職種が半数以上であった。進行状況にばらつきがあるが、すべての職種で検討に着手し始めている。
- (2) 9月と3月に職種の代表者による情報交換会を開催し、職種ごとの取組や課題を共有した。部会の取組に対する施設や関係者の理解が進まず、検討や試行への協力が得られないという課題は依然として残っている。
- (3) 交流研修について、それぞれの施設等で企画する研修を他にも公開し、学びの機会を拡大する体制を検討していく。特に、職種間の相互理解を深めるため、多職種が受講できる研修を積極的に公開していく。また、公開方法について検討していく。

## 7. 広報部会

- (1) 連続講座等の実施及びクリアファイル・チラシ等配布を検討していたが、コロナ禍でのイベント等の中止など、昨年同様の活動を行うことができなかった。
- (2) 佐渡市ホームページに通常総会の議事録等を掲載。